

社会資本整備審議会道路分科会 平成 25 年度第 1 回中国地方小委員会  
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 25 年 6 月 20 日（木）15:00～17:00

2. 場 所

中国地方整備局 建政部 3 階 第 1、2 会議室

3. 出席者

<委員>

◎ <sup>ふじわら</sup>藤原 <sup>あきまさ</sup>章正 広島大学大学院 国際協力研究科 教授

<sup>かまくら</sup>鎌倉 <sup>ひであき</sup>秀章 中国経済連合会 専務理事

<sup>さわ</sup>澤 <sup>きしろ</sup>喜司郎 山口大学 経済学部 国際経済学科 教授

※敬称略 ◎は委員長

4. 議 題

- (1) 道路に関する最近の動向について（情報提供）
- (2) 計画段階評価について  
山陰自動車道（福光～江津）
  - ・第 2 回地域意見の聴取結果
  - ・地域の意見を踏まえた対応方針（案）

5. 委員からの主な意見

○ 第 2 回地域意見聴取の結果について

- ・意見聴取の結果及び分析結果は妥当である。

○ 地域の意見を踏まえた対応方針（案）について

- ・「経済性や事業期間の面で優れている」といった表現について、「経済性」といった言葉はさまざまな意味を持つ。ここでは、事業費に関することを意味しているため、直接「事業費」と表現したほうが分かりやすい。
- ・「事業期間」といった表現も、意見聴取結果で早期実現を望んでいるといった意見が多いことを踏まえたものであるため、より一般の方に分かりやすい表現として、「早期に走行性の高いネットワークを形成できる」といった直接的な表現が理解しやすい。

### ○ 計画段階の手続きに関する地方小委員会のご意見について

- ・意見聴取に関し、通過交通や域内交通といったトリップ別の意見聴取のやり方に、もう少し工夫をすることも重要と感じた。
- ・意見聴取の結果が、いずれの対策方針（案）でも対応できない内容となった場合の判断をどうするのか今後の課題である。
- ・説明資料に用いる表現も、一般の方に分かりやすい表現を用いることが、回答者にとっても分かりやすく、また、結果分析においてもより正確な判断ができることにつながる。

## 6. 総括

- ・第2回の意見聴取の結果、新たな道路整備の方向性に関しての地域住民、道路利用者、企業等の意見を総括すると、「妥当である」との結果が得られた。また、対策案の検討にあたり、道路に求める機能や、道路を計画する際に配慮すべき事項についても、「災害に強い」又は「安全な道路」を求める意見と、「早期に実現する道路が必要」といった意見が得られた。
- ・対応方針（案）については、その2つの側面から分析されており、意見聴取の結果を踏まえた、「当面、「国道9号江津バイパス」と「県道浅利渡津線」を活用し、福光～浅利間に新たな自動車専用道路を計画し、走行性の高いネットワークを形成する」案2が妥当であるといった結果も、妥当な判断である。
- ・ただし、対策方針（案）の検討に係わるページの表現には工夫が必要と考える。「経済性」といった表現は、本ルートの比較検討要素としての「事業費」に、また、「事業期間」については、「早期に実現する道路が必要」といった意見結果を踏まえたものであることから、直接「早期に走行性の高いネットワークを形成できる」といった表現にするほうが分かりやすい。

以上